

加賀市のブロッコリー産地が販売額 2 億円を突破

加賀市のブロッコリーの生産は、昭和 55 年に水田転作として、30a で試験栽培を行ったのが始まりで、その後作付面積が拡大し、昭和 61 年には「J A 加賀ブロッコリー部会」が結成されました。

農林総合事務所では、栽培当初から生産拡大と安定出荷のため、当地域に合った品種選定や肥料・農薬の試験、土壌分析に基づく施肥設計、新しい栽培体系の開発等、あらゆる面で支援してきました。

また、J A 加賀と連携し、昭和 58 年から定植機の導入等を進めてきたことにより栽培の機械化が定着し、加えて、共同利用施設の整備を進め、平成元年には真空予冷庫を、平成 9 年には選別装置ラインを、平成 18 年には全国に先がけて自動選別ラインと製氷機の導入を実現しました。これらにより、鮮度を維持したまま県外への長距離輸送が可能となり、現在では県内外の市場でトップ値をつける産地に成長しました。

このような取組の結果、平成 9 年に販売額が 1 億円を、平成 27 年度には初めて 2 億円を突破しました。

産地の評価をさらに高めるため、J A 加賀ブロッコリー部会が普及指導員と協働で加賀市だけでなく近隣市町の新規就農者に対してもブロッコリー栽培を指導し、産地全体の安定生産と品質向上に努めています。

また、地元の全小学校（20校）を対象に、食育教室「なぜ・なにブロッコリー教室」を開催し、地産地消にも取り組んでいます。

米価下落による所得減少のため水稲作経営の先行きが不透明な中、当地域では今まで以上に転作作物としてのブロッコリーの位置づけが重要視され、既存生産者の作付拡大や新規栽培者の増加が予想されることから、一層、普及指導に力を注いでいきたいと思ひます。



ブロッコリー自動選別ライン



なぜ・なにブロッコリー教室

問い合わせ先：南加賀農林総合事務所 農業振興部
(0761-23-1703)